

第 3 回 中心市街地グランドデザイン戦略会議における意見の振り返り

委員	前回の主な意見	定住	空間	資源	来街者	情報	商業	ヒト	方向性
大塚委員	1. 面的展開が重要である。路地を活かしていくというのも面的展開を考えるにあたっては一つの切り口としてあるのではないか。			①					
	2. ゾーニングについて、A、Bとはっきり分けるのではなく、両方の要素が入り組んだゾーンがあったらどうか。		②						
	3. ゾーニングを1つに絞る必要はないが、ニーズに合わせたまちづくりの必要があるのでターゲットを具体的に設定した方がいいと思う。							③	
生田委員	1. Bゾーンが文化的な要素を含んだゾーンであるので、まちづくりの方向性にもう少し歴史・文化を感じさせる表現があってもいいと思う。			④					
	2. ゾーニングが少しざっくりとした区分けになっている印象なので、空間的なイメージがシンボルロード以外の路地にもあるといい。		⑤						
鶴田委員	1. 方向性3の「活気の創出」が「つながる場」を表現できているのか。活気ということであれば、小牧市としての都市の顔が表現できる言い方だといい。								⑥
	2. A、Bとゾーニングするのはいいが、全体の整備方針があるといいのではないか。		⑦						
名和委員	1. 新型コロナウイルス感染症の影響により以前とは状況が大きく変わっている。						⑧		
	2. シンボルロードについて、通過するだけの道路では意味がない。点1つ1つをもっと活かすために、イベントなどソフト事業についても考えていく必要があると思う。						⑨		
	3. 建物中心で議論するのではなく、その場所を活かしてどうイベントをやっていくかという議論も同時にやっていかななくてはならない。もう少し広い議論をする会議体にしていくことも必要ではないか。								⑩
	4. オープンカフェやイベントなどいいアイディアだと思うが、手続きや費用をフォローしてもらえる仕組みも同時に考えてほしい。						⑪		
加藤委員	1. 歩道をもう少し綺麗に整備して、小牧山に行くための道ではなくて道中が楽しくて歩けるシンボルロードになるといい。		⑫						
	2. 歩道で飲食ができるスペースがあるといい。		⑬						
	3. Bゾーンの核として、現図書館の跡地にオープンカフェができるといい。人が休憩して集まれる場所や文化を薫らせるような展示スペースがあるといいと思う。			⑭					
	4. 新図書館の1階の歩専1号線沿いにカフェが入るとのことであるので、ここにキッチンカーの乗り入れが出来たり、イベントが出来たりすると人が集まる場所になると思う。						⑮		
	5. イベントの際に電源がしっかり確保できるといい。						⑯		
山下市長	1. 方向性1の「にぎわい」と方向性3の「活気」が分かりにくい。								⑰
	2. 現図書館の跡地利用については、市としても大きなテーマだと思っているが、それに限らずゾーン全体の議論が必要である。		⑱						
	3. 新型コロナウイルス感染症が中心市街地のあり方にどう影響するか見通しはまだ持てていない。						⑲		
	4. これまではシンボルロードから脇道という面的整備については計画に描けていない状況であり、今後はその視点も重要である。			⑳					
	5. 歴史ある街道なども活用しながらイベントを開催するなど、ソフト面でも人のつながりが作れるといい。			㉑					
	6. 若い世代や子育て世代の定住促進のため、公園など居住性や魅力をあげていくような整備が必要である。	㉒							
	7. 集まるという部分でいけば、やっぱり若い人たちにも魅力を感じていただける、来たいと思っていただけるような中心市街地にしたい。				㉓				